

株式会社ヨータイ

2022年3月期

決算説明資料

2022年5月26日

証券コード：5357

新型コロナウイルス感染症（C O V I D-19）によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げるとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

当社は、お客様、お取引先様、地域社会の皆様、従業員とその家族の安全と健康を最優先に感染拡大防止に努め、感染防止策を徹底したうえで、産業や社会を支えているお客様へ供給責任を果たしてまいります。

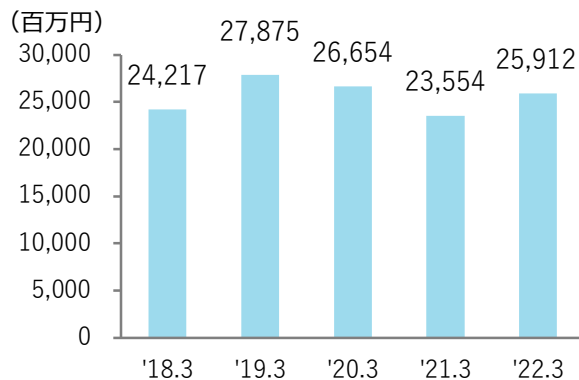
2022年3月期連結決算概要

- 主要取引先である鉄鋼業界の回復による耐火物の販売量増加などにより売上高は前期比10.0%の増収。
- 原燃料価格の上昇等があったものの、生産量・出荷量の増加により、経常利益は前期比36.5%の増益。
- エンジニアリング事業は、大口の工事案件の受注が増加したこと等により、売上高は前期比6.1%の増収、セグメント利益は同2.5%の増益。

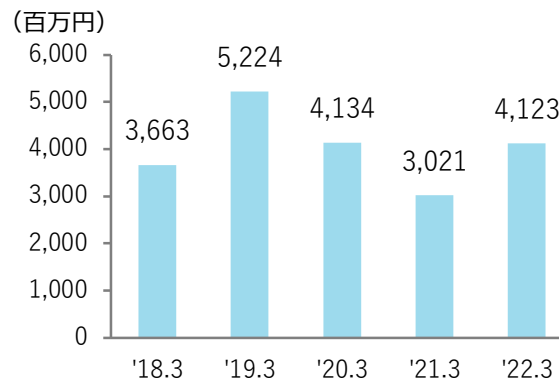
(百万円)

	2021.3期	2022.3期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	23,554	25,912	+ 2,357	+ 10.0%
営業利益 (売上高営業利益率)	2,921 (12.4%)	4,089 (15.8%)	+ 1,168	+ 40.0%
経常利益 (売上高経常利益率)	3,021 (12.8%)	4,123 (15.9%)	+ 1,101	+ 36.5%
親会社株主に帰属する当期純利益 (売上高当期純利益率)	1,845 (7.8%)	2,966 (11.4%)	+ 1,121	+ 60.8%

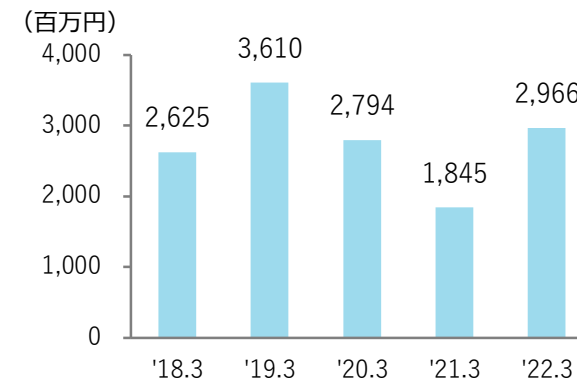
売上高



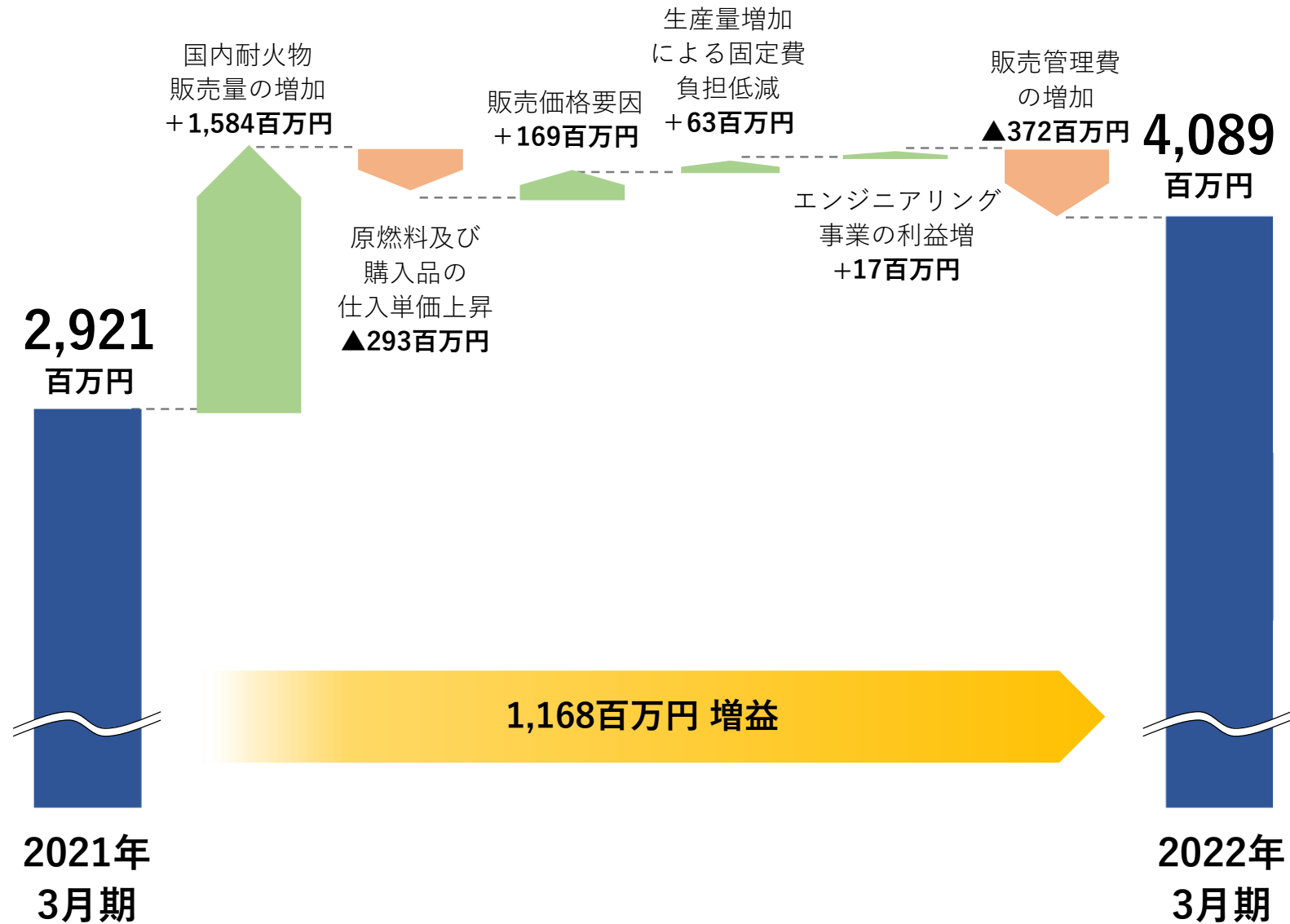
経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益

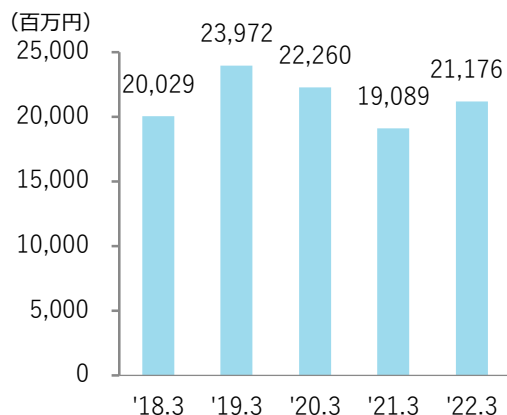


連結営業利益増減要因分析（前期比）

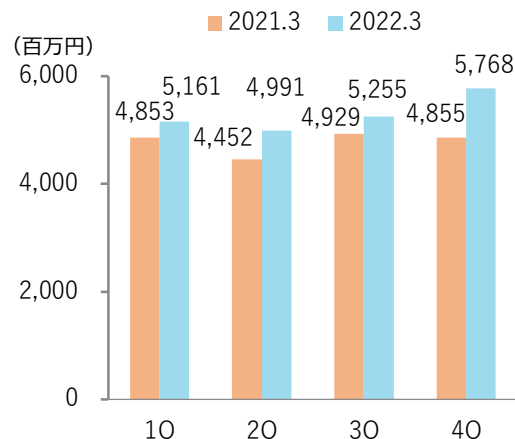


売上高は前期比10.9%増の21,176百万円、 セグメント利益は前期比36.0%増の4,910百万円

売上高



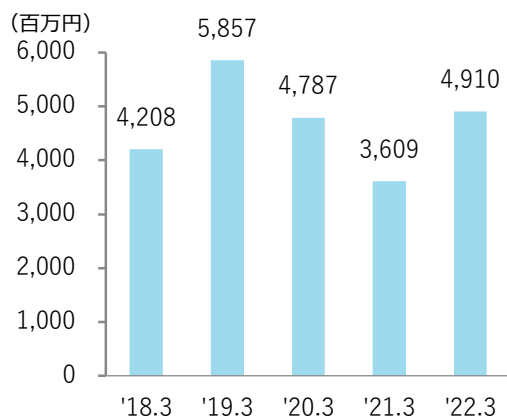
売上高 (四半期ごと)



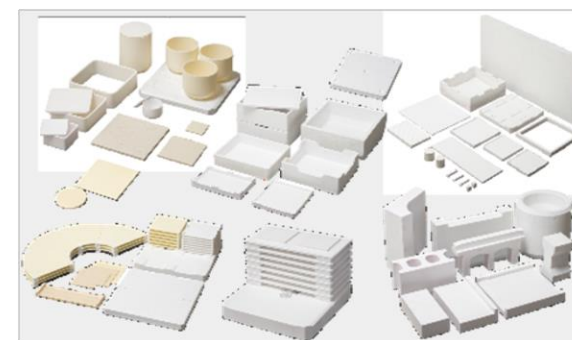
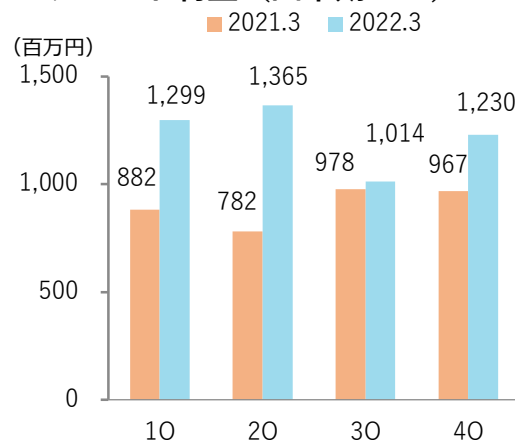
当期のハイライト

- 鉄鋼：粗鋼生産量の回復に伴い、大手電炉メーカー、特殊鋼メーカーからの受注が拡大
- セメント：コロナ禍で民需が落ち込んだことにより受注は減少
- 非鉄金属：非鉄金属メーカーの生産が回復し受注が増加
- 環境装置：プラントメーカーへの営業活動を積極化し、新規案件の受注が増加
- 電子部品：電子部品業界向け新製品が好調
- 生産量増加により単当たりの原価が低減

セグメント利益



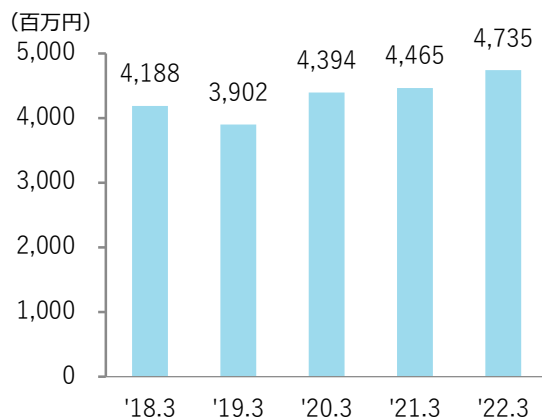
セグメント利益 (四半期ごと)



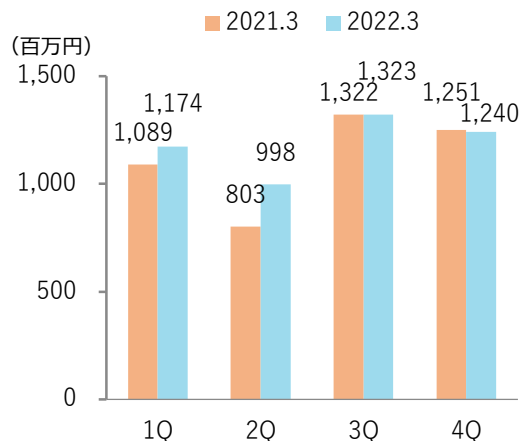
電子部品焼成用道具材

売上高は前期比6.1%増の4,735百万円、 セグメント利益は前期比2.5%増の716百万円

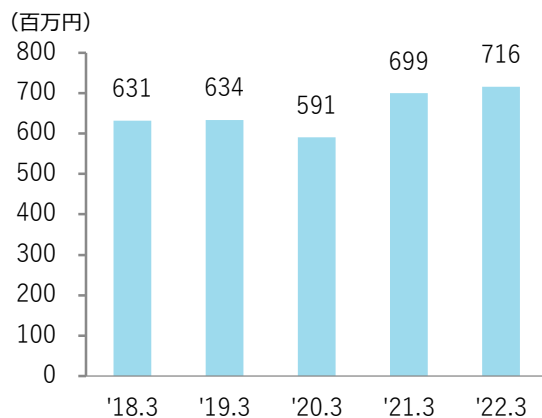
売上高



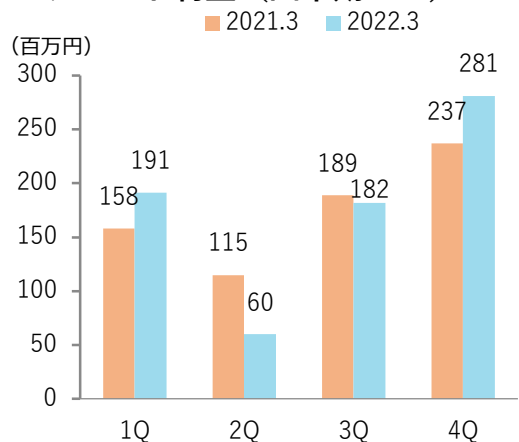
売上高 (四半期ごと)



セグメント利益



セグメント利益 (四半期ごと)



当期のハイライト

- 材工一式の強みを活かした積極的な営業活動を行い売上は増加
- 中でも、環境装置向けの新規案件の受注獲得が順調に推移
- 貝塚出張所の設置、ラインチェスの追加購入、人材の採用など、将来に向けた施策を実施
- 売上の増加に加え、新規開発の不定形耐火物を活用して工期の短縮を実現し、費用増を吸収して増益



ラインチェス

連結貸借対照表

(百万円)

	2021.3期	2022.3期	増減	主な増減要因
流動資産	27,921	30,282	+2,360	原材料及び貯蔵品 +2,253 製品 +996 受取手形及び売掛金 +809 現金及び預金 ▲2,853
固定資産	7,474	8,468	+993	建設仮勘定 +574
総資産	35,396	38,750	+3,353	
流動負債	4,967	7,236	+2,268	買掛金 +785 電子記録債務 +568
固定負債	1,396	1,404	+7	退職給付に係る負債 +31
負債合計	6,364	8,640	+2,276	
純資産合計	29,032	30,109	+1,077	利益剰余金 +2,372 自己株式 ▲1,495
負債・純資産合計	35,396	38,750	+3,353	
自己資本比率	82.0%	77.7%	▲4.3pts	
ROE (自己資本当期純利益率)	6.6%	10.0%	+3.4pts	

(百万円)

	2021.3期	2022.3期	当期の主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	4,803	421	税金等調整前当期純利益 + 4,123 仕入債務の増加 + 1,409 棚卸資産の増加 ▲3,194 売上債権の増加 ▲1,616
投資活動による キャッシュ・フロー	▲1,202	▲1,208	有形固定資産の取得による支出 ▲1,139
財務活動による キャッシュ・フロー	▲418	▲2,111	自己株式の取得による支出 ▲1,499 配当金の支払額 ▲588
現金及び現金同等物に 係る換算差額	2	45	
現金及び現金同等物の 増減額	3,184	▲2,853	
現金及び現金同等物の 期末残高	11,390	8,537	

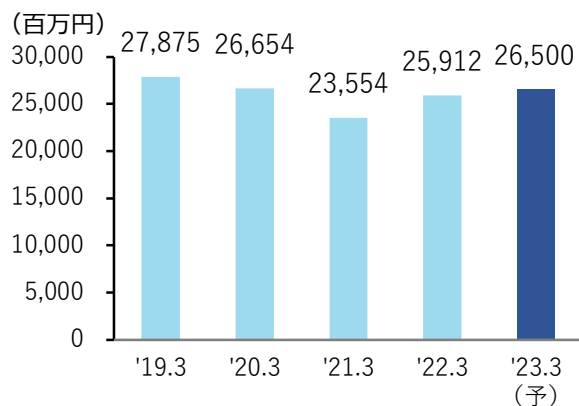
2023年3月期連結業績予想

- 鉄鋼向けの需要が堅調に推移すると想定し、売上高は前期比2.3%の増収、経常利益は同15.1%の減益を見込む。
- 新型コロナウイルス、ロシア・ウクライナ問題などを背景とした原材料費・輸送費の高騰や為替相場の変動などの不透明要因に注視が必要。

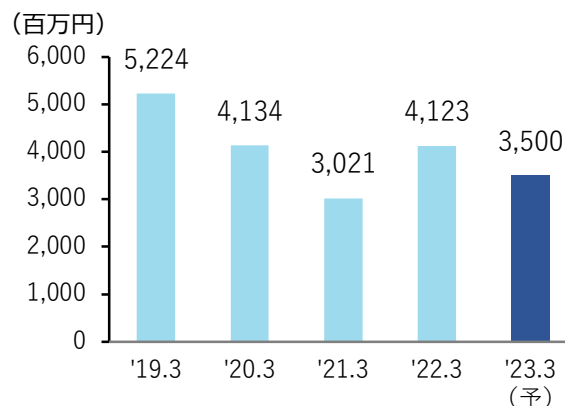
(百万円)

	2022.3期	2023.3期 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	25,912	26,500	+587	+2.3%
営業利益 (売上高営業利益率)	4,089 (15.8%)	3,400 (12.8%)	▲689	▲16.9%
経常利益 (売上高経常利益率)	4,123 (15.9%)	3,500 (13.2%)	▲623	▲15.1%
親会社株主に帰属する当期純利益 (売上高当期純利益率)	2,966 (11.4%)	2,400 (9.1%)	▲566	▲19.1%

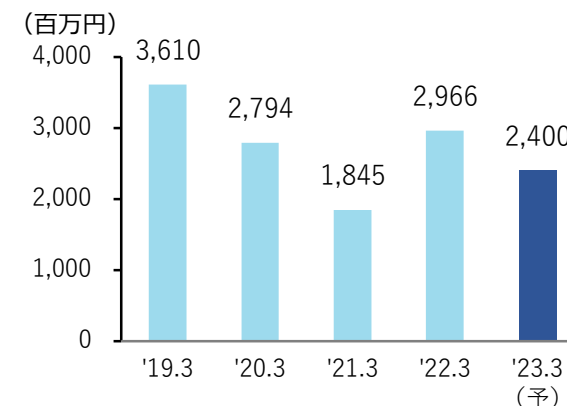
売上高



経常利益

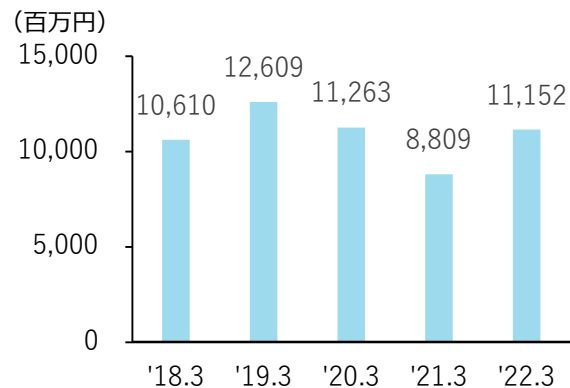


親会社株主に帰属する当期純利益

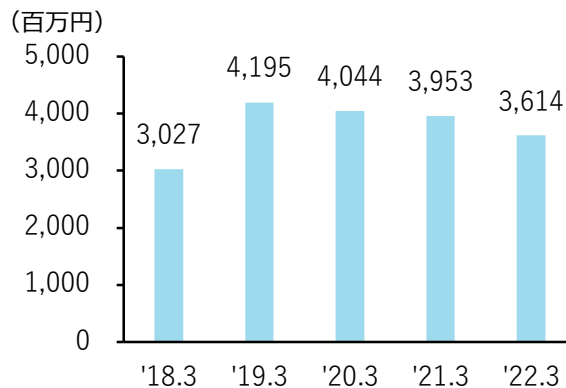


業種別売上実績【単体】と見通し

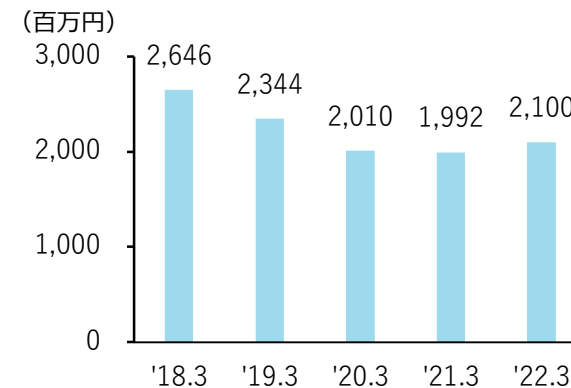
鉄鋼



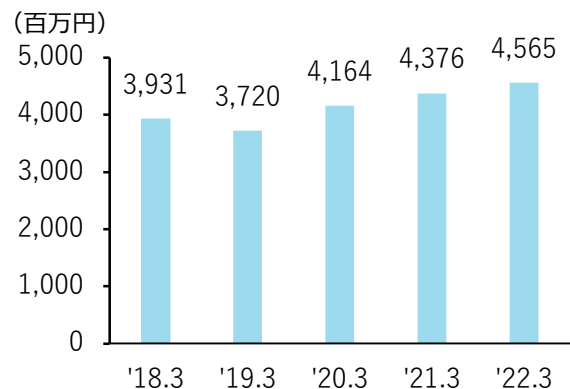
セメント



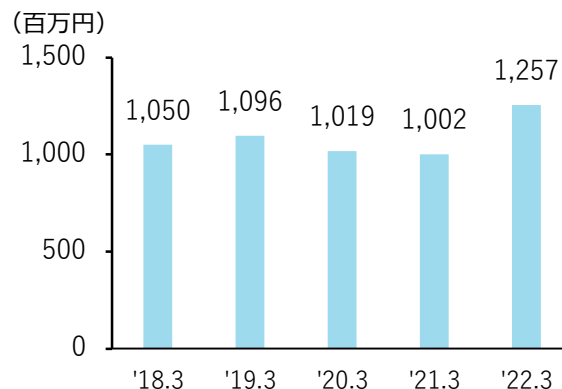
非鉄金属



環境装置



電子部品



	22.3期 実績	23.3期 見通し
鉄鋼	➡	➡
セメント	➡	➡
非鉄金属	➡	➡
環境装置	➡	➡
電子部品	➡	➡

第一次中期経営計画の進捗と 今後の戦略



貝塚工場の太陽光発電設備

第一次中期経営計画（2021年度-2023年度）

「目指す企業像」の実現に向けて体制作りを行う期間

基本戦略・重点施策

高い収益力・高い財務健全性の維持を図りながら、ヒト・モノ・情報などへの投資を行い、持続的成長を支える経営基盤を構築する。

収益力の維持

①

製品・サービスの質の向上による売上拡大

製品

- 他社に勝る差別化製品の展開

技術営業

- 技術サービス体制の強化

顧客対応

- 営業拠点の増設による顧客へのきめ細かい対応

②

低コスト・安定供給体制の強化

原料調達

- 原材料・エネルギー調達力の強化

合理化・効率化

- 合理化設備への積極投資
- 人員配置の最適化
- DXの推進

③

新たな収益源の育成

開発体制

- 研究開発体制の構造改革による次代を担う製品開発体制の強化

外部連携

- 顧客との技術交流に基づく新製品開発

ESG経営の推進

④

ESGの推進による経営基盤の構築

E：環境

- CO₂排出の少ない製造プロセスの構築
- 省エネルギー、脱炭素を見据えた設備投資

S：社会

- 健康経営の推進による従業員の活力向上・組織の活性化・生産性の向上

G：ガバナンス

- ガバナンスの体制改革と実効性強化
- 情報開示の充実とステークホルダーとの対話

第一次中期経営計画の数値目標

(百万円)

	2021.3期	2024.3期	2021.3期との比較	
			増減額	増減率
売上高	23,554	26,000	+2,446	+10.4%
営業利益 (売上高営業利益率)	2,921 (12.4%)	3,500 (13.5%)	+578	+19.8%
経常利益 (売上高経常利益率)	3,021 (12.8%)	3,600 (13.8%)	+579	+19.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (売上高当期純利益率)	1,845 (7.8%)	2,400 (9.2%)	+555	+30.1%
ROE	6.6%	8%	+ 1.4pts	—
連結配当性向	20.1%	30%	+ 9.9pts	—

重点施策に沿った取り組みを着実に推進し、中期経営計画は順調にスタート

- ✓ 鉄鋼など主要分野で回復した需要を確実に取り込んで大幅増益となり、利益面では2024.3期の業績目標を達成
- ✓ 鉄鋼向けの不定形耐火物の新製品開発に加え、人員増強や研究開発体制の構造改革を実施するなど、将来を見据えた施策にも一定の成果
- ✓ ヒト・モノ・情報への投資は、計画通りに進捗
 - ヒト：技術営業の人員を増強するとともに、育成体制を強化
 - モノ：大型プレス機をはじめ最新鋭の設備を導入し生産性向上を実現
 - 情報：AI-OCRやRPAを導入し残業時間の削減を実現
- ✓ 業界全体の課題であるCO₂排出削減に向けて施策を幅広い分野で実施
- ✓ 2023.3期も鉄鋼向けの需要が堅調に推移すると想定するものの、新型コロナウイルス、ロシア・ウクライナ問題を背景とした原材料費・輸送費の高騰や為替相場の変動など不透明要因も多いため、2024.3期の業績目標は据え置き

不定形耐火物の新製品を開発し、今後の販売拡大に向けて 技術営業の採用・育成体制を強化

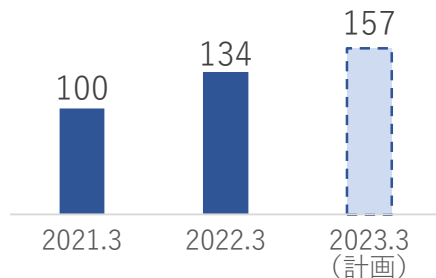
製品

- 低CO₂排出耐火物を開発、拡販
 - CFC-DGシリーズ
無刺激性乾式工法吹付材
 - CFC-LEシリーズ
低セメント系低膨張性キャストブル
 - EPCシリーズ
耐爆裂性キャストブル
 - MS-RAPシリーズ
ケミカルバインダー系簡易吹付材
 - グロブ19NW
耐アルミニウム性キャストブル

- 電子部品焼成用道具を開発、拡販
 - 耐ベンドセッター
 - 耐スポールセッター

セッター売上推移

※2021.3を100とした場合の数値

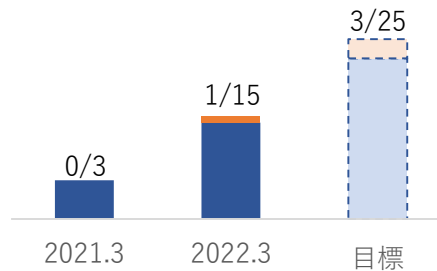


技術営業

- 技術力向上に向けたキャリア人材を採用

技術営業員数

(うち技術営業員数/キャリア採用員数)



- 技術サービス育成マニュアルを整備し、技術サービス員の育成体制を構築

顧客対応

- コロナ禍での機動的な顧客対応
 - 北海道地区および九州地区における営業体制を強化
 - エンジニアリング事業部
貝塚出張所を設置



新たな設備・点検方法の導入によってコスト競争力を強化するとともに、 原材料の備蓄体制を強化

原料調達

- 中国リスクを低減するため、瑞浪工場において、約5,000MTの原料保管スペースを確保



- 2022年10月付けで柴田窯業原料の耐火物原料の製造事業及びこれに付随する事業を譲り受けることに合意
 - 一部の安定的・持続的な原料調達体制の整備
 - 原料リサイクル化への対応

合理化・効率化

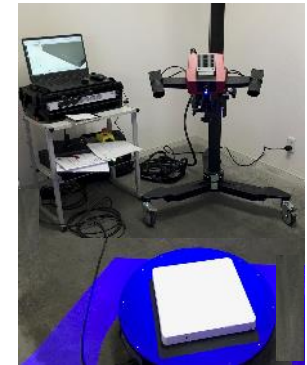
- 各工場へ大型プレス機、高効率プレス機を導入し生産性を向上
 - 日生：3,000T（2022年4月稼働）
 - 吉永：1,500T（2022年9月稼働予定）
 - 貝塚：1,500T自動化（準備開始）
 - 瑞浪：850T高効率化（2022年9月稼働予定）



日生工場3,000Tプレスの竣工式

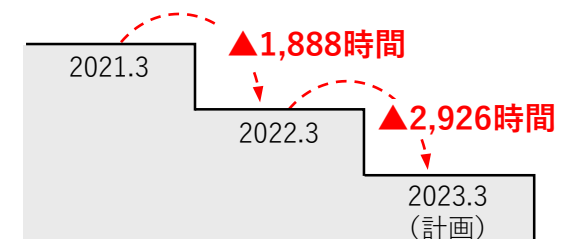
- 貝塚工場へX-シリーズ合理化設備を導入
 - 原料秤量自動化設備
 - 大型品・複雑異形品の固形鑄込の成形を効率化

- 瑞浪工場へ3D計測装置を導入し、仮組計測速度向上と作業の効率化を推進



- AI-OCRとRPAを導入し、労働時間の削減を実現

労働時間削減の推移



- 2023.3期は経理部門を中心に普及を進める計画 みくも
- 基幹システム（名称：未雲）は2023年10月の稼働予定

競争力の高い新製品の研究開発力を高めるための構造改革を実施し、 CO₂排出削減に貢献する新製品開発を推進

開発体制

- 研究・開発・技術サービス員の増強による研究開発のスピードアップおよび顧客への迅速的な技術対応
 - 技術研究所 3名増員
 - 新材料研究所 1名増員
 - 2023年3月期、2024年3月期も各2名以上の増員を計画
- 高耐食性耐火物、高耐用電子部品焼成用道具材、合成粉体製造、リサイクル原料製造等の研究開発テーマの推進
- 製造プロセスで大量消費する化石燃料の非化石燃料へ置換するための基礎技術の構築
- カーボンニュートラルに向けた不定形耐火物・不焼成れんがの開発
 - CFC-DGシリーズ
無刺激性乾式工法吹付材
 - CFC-LEシリーズ
低セメント系低膨張性キャストブル
 - EPCシリーズ
耐爆裂性キャストブル
 - MS-RAPシリーズ
ケミカルバインダー系簡易吹付材
 - グロブ19NW
耐アルミニウム性キャストブル
 - 高耐用不焼成マグクロれんが

CO₂排出削減に向けた各種取り組みを行うとともに、働き方改革とDXを推進

E (環境)

- 太陽光発電設備の設置
 - 貝塚工場にシステム容量50kW級を設置
 - 吉永工場第二製造所にシステム容量150kW級を設置
 - 2023.3期
瑞浪工場に660kW級を設置予定
 - 2024.3期
日生工場、吉永工場に設置計画
- バッテリーリフトの導入
 - 2023.3期 EV化率28%予想
 - 2024.3期 EV化率36%予想
- 経済産業省の『カーボンニュートラルに向けた投資促進税制』に適合認定
 - 生産効率性の高い大型高圧プレス機の導入、再生可能エネルギーの活用により、耐火物製造に伴うCO₂の排出量を削減し、付加価値の創出と環境への負荷低減の両立を図る
- TCFD提言に基づく気候変動に関するリスク・機会のシナリオ分析と対応策について6月末に開示予定

S (社会)

- 人権
 - コンプライアンス相談窓口の設置やコンプライアンス教育の取り組みを実施
- ダイバーシティ
 - 女性取締役を1名選任し、ジェンダーや女性活躍推進に関する視点でのご意見をいただく
- 働きやすい職場づくり
 - 働き方改革を推進し、勤怠管理システム導入による労働時間管理を徹底
 - 2022年4月より持続的成長型給与制度に基づく新人事評価システムの運用を開始
- 健康経営の推進
 - 健康経営推進セミナーの開催
- 持続的な成長に向けて
 - 従業員の新規採用を積極化

G (ガバナンス)

- 指名・報酬諮問委員会を活用
- 株主との価値共有を図るため、RS（譲渡制限付株式報酬制度）を採用
 - 2021年6月に役員を対象に導入
 - 2022年2月には対象を従業員持株会（496人）に拡大
- 数値目標の達成の確度を向上させるため、取締役会に各事業所長を出席させ、中期経営計画の進捗状況と今後の課題を共有

コーポレートガバナンス強化の変遷

	2019	2020	2021	2022~ (予定)
社長	田口三男(2019年6月~)			
取締役会	5名(うち、社外1名)	6名(内、社外2名)	6名(内、社外2名(女性1名))	
監査役会	5名(内、社外3名)			
任意の委員会			指名・報酬諮問委員会を設置	
役員報酬			譲渡制限付株式報酬制度導入	
その他		執行役員制度導入		年に1度取締役会実効性評価を実施

材工一式の強みを活かし、鉄鋼、非鉄金属、環境装置、電子部品などの分野でさらなる成長を目指す

耐火物事業

- 好調な事業環境が続く見込みの鉄鋼向けの確実な需要の取り込み
 - 積極的な営業活動の推進
 - 新開発の不定形耐火物の積極提案
- 大型プレス機を最大限に活用した鉄鋼・非鉄金属・セメント・硝子分野での需要取り込み（日生工場、吉永工場）
- 大型プレスの導入・付帯設備の拡充による電子部品焼成用道具材の品質、生産性の向上（貝塚工場、瑞浪工場）
- 塩基性不定形製造ライン増設による増産体制の確立（日生工場）
- 受注拡大のため営業拠点の設置を検討
- 中国原料の値上がり、燃料価格高騰に対応した製品価格の改定

エンジニアリング事業

- 旺盛な需要を確実に取り込むため、名古屋地区、関東地区拠点の人員増によるサービスの質の向上と拡販を図る
- コストパフォーマンスに優れる低セメント系乾式吹付工法の展開（CFC-DGシリーズ）
- 3D-CAD増設並びに人員強化による設計部門の拡充
- WEBによる海外SVの実施
- 継続的な人員採用・育成

営業支援活動

- ドローンによる炉内点検の効率化
- 熱間オーバリティ測定によるロータリーキルンの設備診断
- ラインチェス増設による耐火物施工時の安全性・効率化の向上
- ケミカルバインダー系高耐用吹付材（MS-RAP）による簡易補修の実現（装置・材料）



自社開発の吹付装置

投資スケジュールと進捗状況

■ 準備期間 ■ 本稼働

		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		進捗状況
		上期	下期	上期	下期	上期	下期	
● ヒト								
採用	積極的なキャリア人材の採用							ほぼ計画通りに進捗
	スカウト型の採用方法導入							ほぼ計画通りに進捗
育成	人事評価制度の改定・実施							2022年4月より実施
	スキル向上プログラムの作成・実行							2023.3期より準備着手
管理	労務時間管理システムの活用							ほぼ計画通りに進捗
	人事情報の一元化・活用							2023.3期より実施予定
	健康経営の推進							引き続き準備を実施
● モノ								
大型高圧プレス導入	1,500T以上のプレス設置							ほぼ計画通りに進捗
新製品開発設備	組織解析装置の導入							2023.3期より実施予定
	特性評価設備の導入							2023.3期より実施予定
	電子部品向け製品の表面改質装置導入の検討							引き続き検討を実施
工業炉点検方法の多様化	工業炉点検用ドローンの導入							ほぼ計画通りに進捗
CO ₂ 排出削減	太陽光パネルの設置							ほぼ計画通りに進捗
	バッテリーリフト、電気自動車の導入							ほぼ計画通りに進捗
● 情報								
DX推進	RPA・AI-OCR等の先端ICT活用による業務効率化							ほぼ計画通りに進捗
	営業支援システム導入による顧客対応力向上							ほぼ計画通りに進捗
	労働時間管理システム導入による働き方改革							ほぼ計画通りに進捗
	人事管理システム導入によるタレントマネジメント推進							2023.3期より実施予定
	エンジニアリング事業部のマニュアル作業のシステム化による組織力向上							引き続き検討を実施
	基幹システム刷新による業務効率化・生産性向上（未雲）							引き続き準備を実施
● その他								
	関連分野でのM&A投資など							引き続き検討を実施

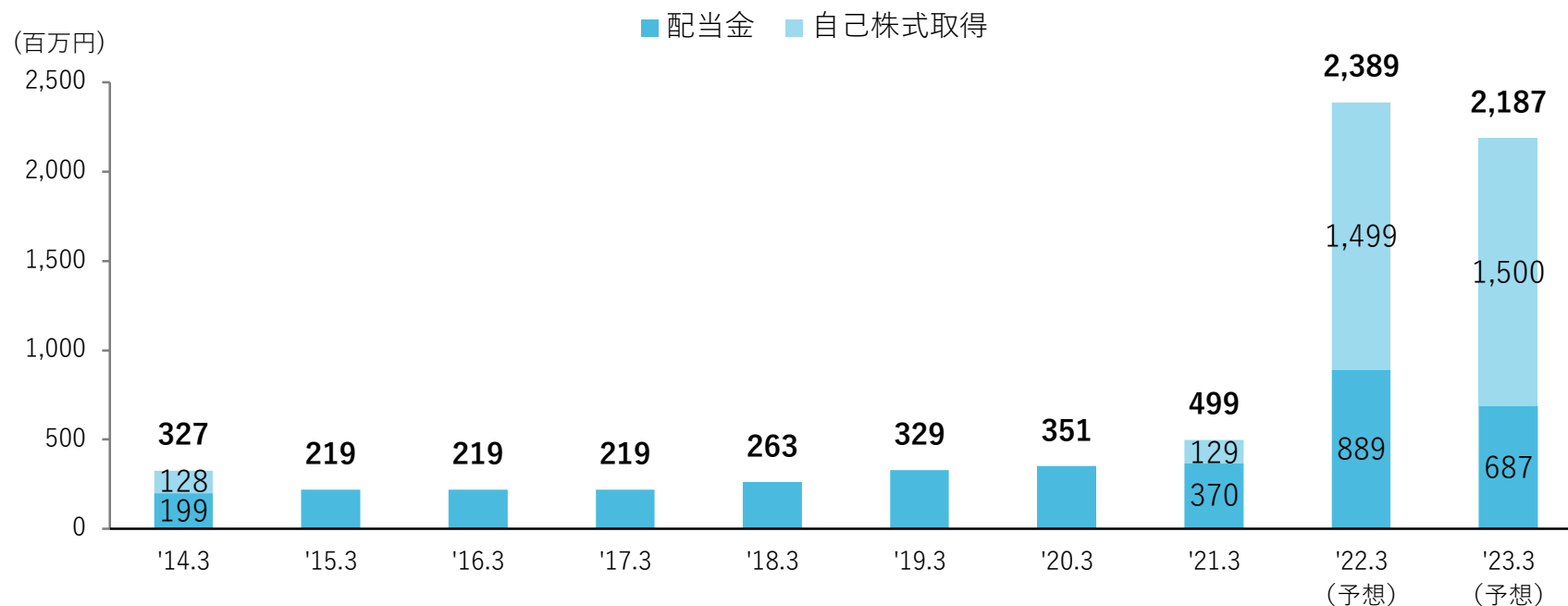
投資、株主還元への資金配分を強化

3年間の累計		内容	2022.3実施額	2023.3計画額
投資 50億円	更新投資 14億円	<ul style="list-style-type: none"> ■ 合理化、効率化投資 	3.3億円	6億円
	戦略投資 23億円	<ul style="list-style-type: none"> ■ 戦略的な設備の導入 ■ 脱炭素投資 ■ BCP投資 	5.2億円	10億円
	IT投資 4億円	<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報システム投資 	0.6億円	1.4億円
	その他 9億円	<ul style="list-style-type: none"> ■ M&A投資および上記に含まれない投資 	—	2億円
株主還元		<ul style="list-style-type: none"> ■ 株主還元を強化 (連結配当性向30%を目標) 	30.4% (予定)	30.9% (予定)
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 機動的な自己株式の取得 	15億円	15億円 (予定)

※上記以外の投資についても、内容、金額を精査し、適宜検討していく方針

連結配当性向 30%を目標にするとともに、 機動的な自己株式の取得を行う

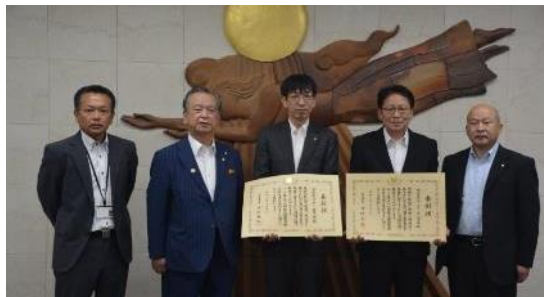
配当金および自己株式取得額



	14.3	15.3	16.3	17.3	18.3	19.3	20.3	21.3	22.3	23.3
1株当たり配当金 (円)	9.0	10.0	10.0	10.0	12.0	15.0	16.0	17.0	43.0	36.0
連結配当性向	25.2%	23.8%	23.5%	16.0%	10.1%	9.1%	12.6%	20.1%	30.4%	30.9%

SDGsの実現に向け、ヨータイとして何が出来るかを考え、実行してまいります。

「献血運動推進団体」として 厚生労働大臣表彰を授与



日生工場、吉永工場が受賞しました。

新型コロナウイルス感染症 対策基金へ寄付



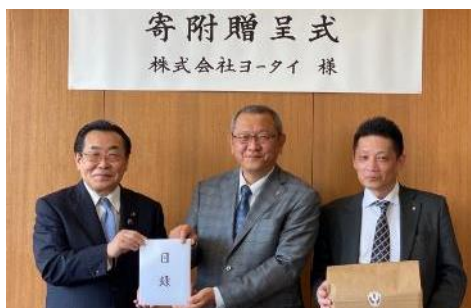
研究開発支援として100万円を寄付しました。

難民や災害被災者への衣料支援



262着を寄贈しました。

備前市、瑞浪市、貝塚市に 生理の貧困に係る寄贈



生理用品を寄贈しました。

瑞浪市内のこども園に 卓球台を寄贈



2台の卓球台を寄贈しました。

使用後携帯電話リサイクル 活動に参加



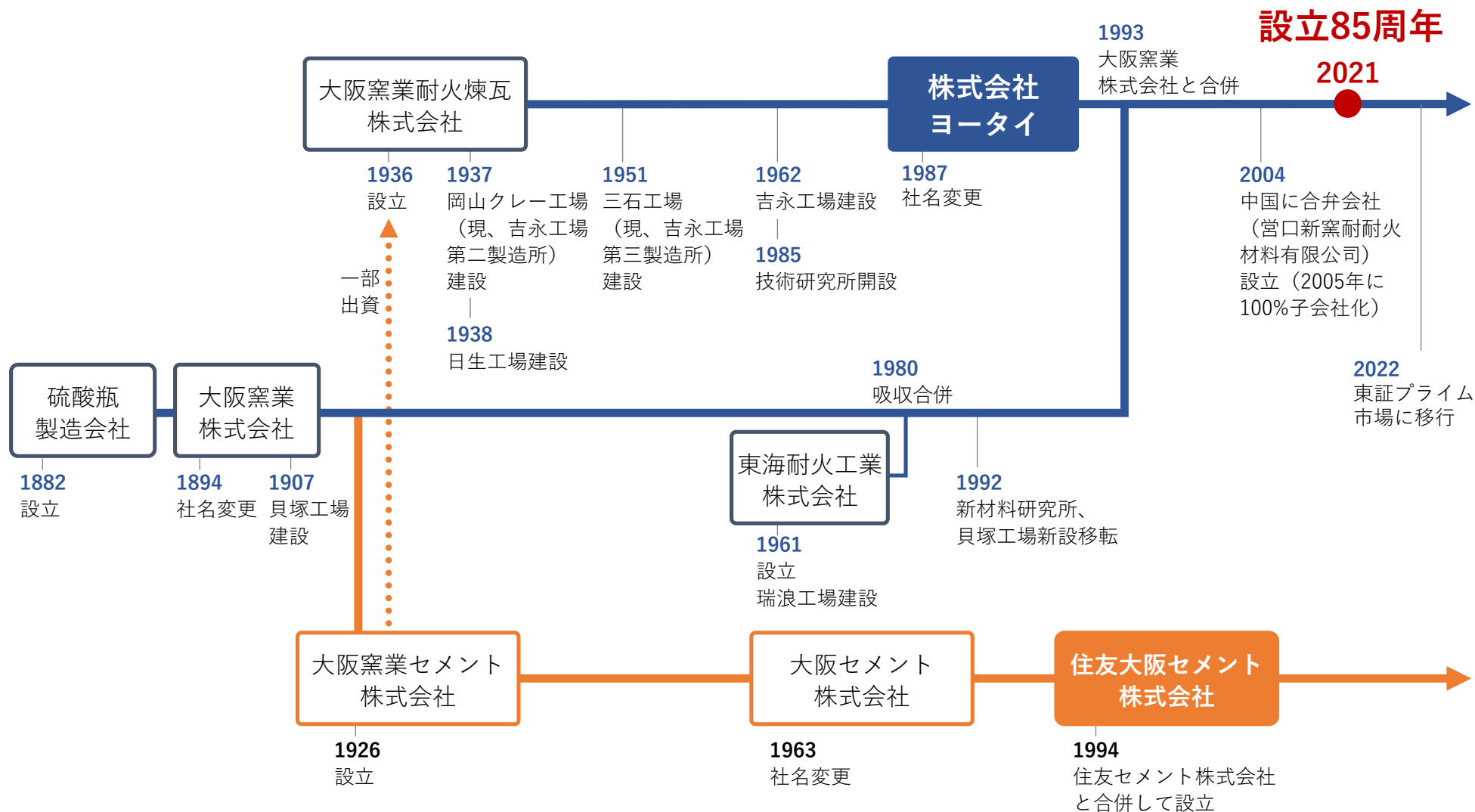
社員および関係者の不要携帯電話238台を回収しました。

Appendix

耐火物で未来を創造

商号	株式会社ヨータイ（英訳名 YOTAI REFRACTORIES CO., LTD.）
創業	1936年（昭和11年）8月
本社所在地	〒597-0093 大阪府貝塚市二色中町8番1
従業員数	564名（2022年3月31日現在）
資本金	26億54百万円（2022年3月31日現在）
事業内容	耐火物・ニューセラミックスの製造販売および関連エンジニアリング事業
企業理念	<p>私たちヨータイグループは、 永年に亘る耐火物製造技術の歴史と経験を後世に継承しつつ、 ヨータイ独自の技術を活かして、 革新する時代に即した新しい技術と製品を創出し、 顧客の満足度を高めるとともに、 社会に貢献する誠実な企業を目指します。</p>

鉄鋼、非鉄、セメント、ガラス、焼却炉などの基礎産業とともに発展



特定の系列に属さない

独立系

多業種での確固たる地位



誠実かつ機動的な顧客対応

特定の業種の動向に
影響されにくい事業構造

企業文化に裏付けされた

徹底したコストマネジメント

内製化の追求



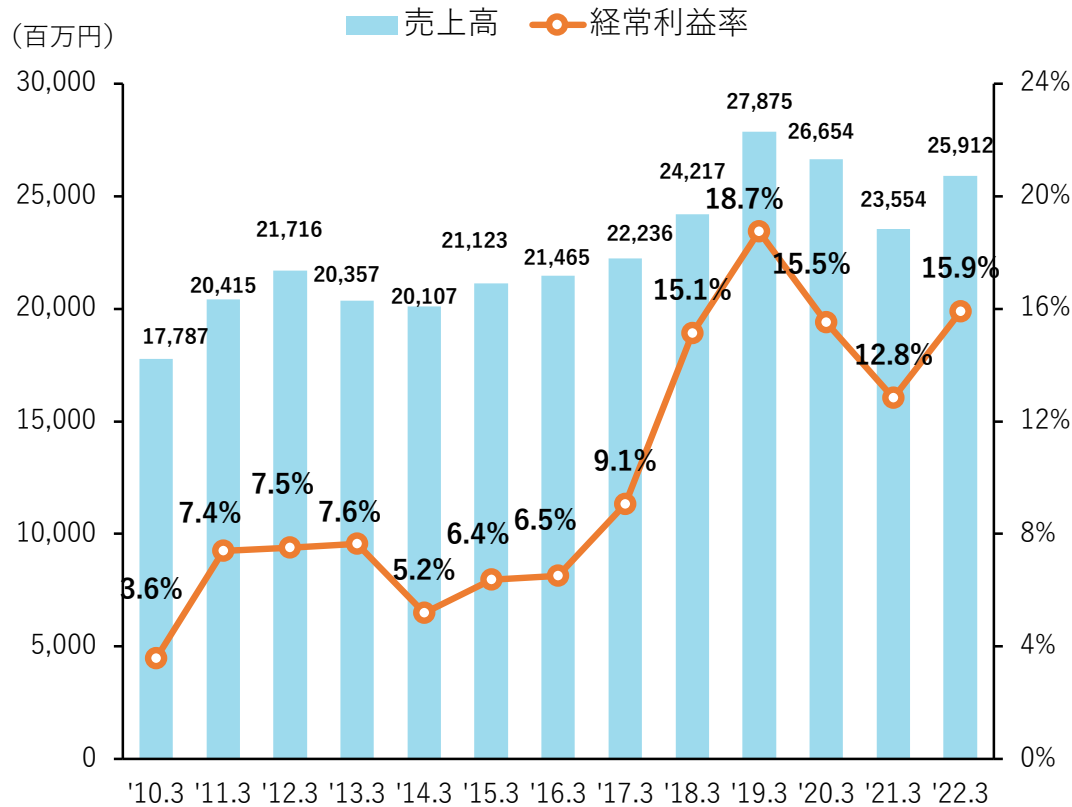
技術営業・多能工

業界トップクラスの収益性

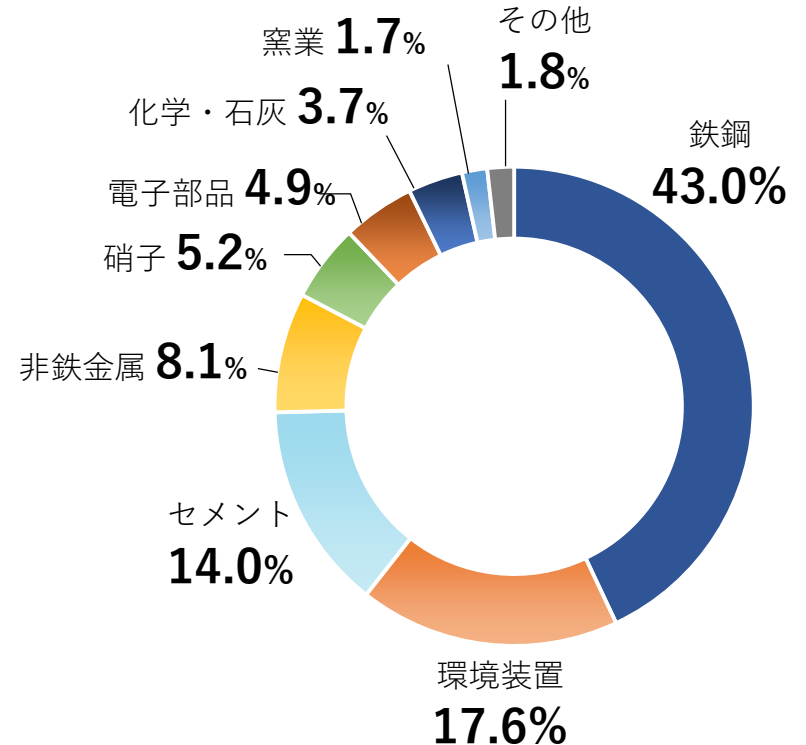
持続的な利益成長を実現

特定の業界の好不況の影響を受けず持続的に成長

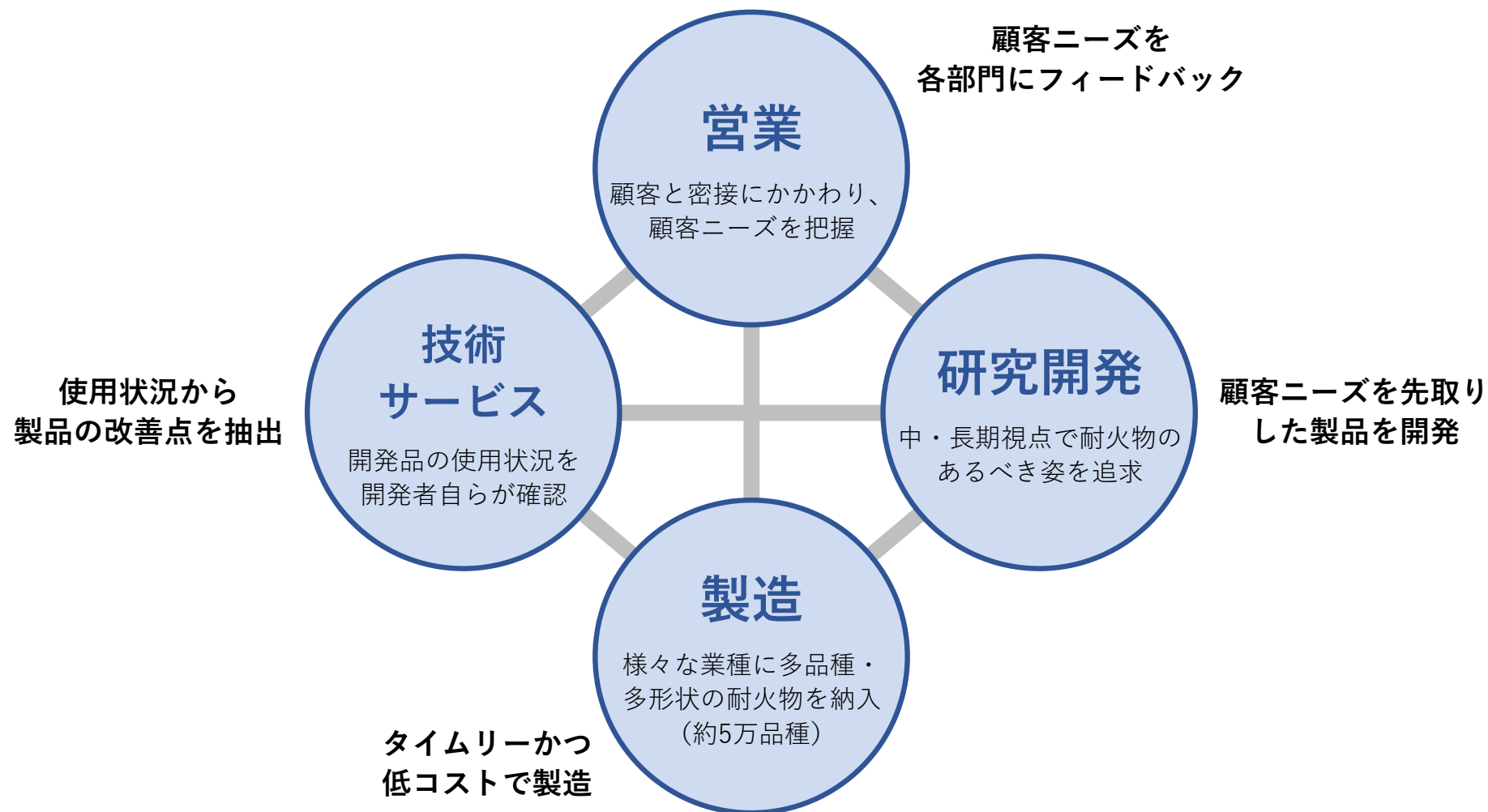
■ 売上高・経常利益率の推移
【連結】



2022年3月期の業種別売上実績 (金額比)
【単体】

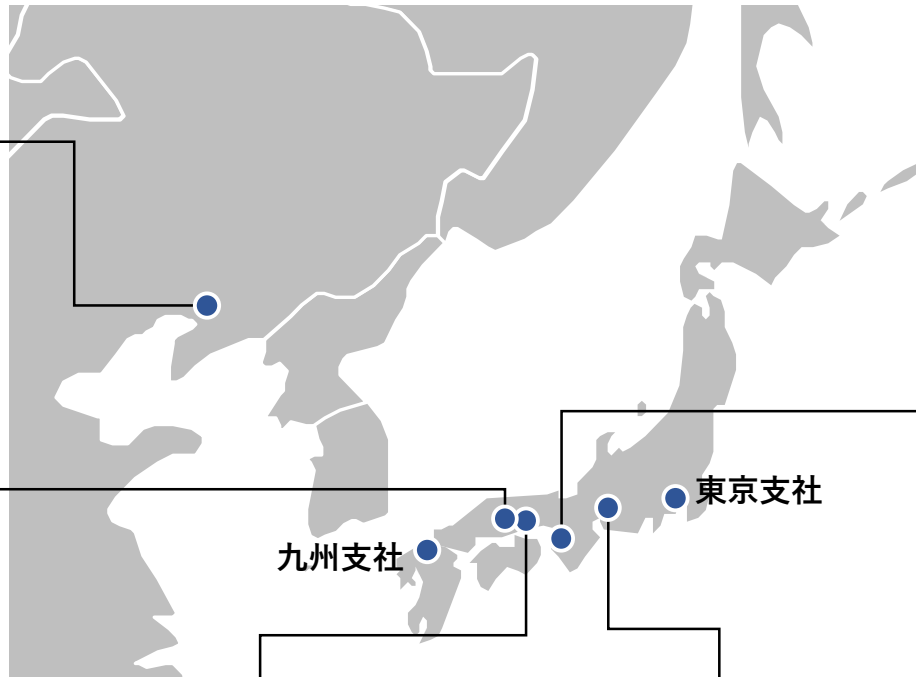


「営業」「研究開発」「製造」「技術サービス」が一体となって価値を提供





営口新窯耐火材料有限公司
(中華人民共和国遼寧省)



吉永工場



吉永工場第二製造所



岡山支社 日生工場
技術研究所
エンジニアリング事業部



名古屋支社・瑞浪工場



本社



貝塚工場 新材料研究所

分類

品種

主な用途

定形耐火物

ブロック状やプレート状など種々の形を持つ耐火物。成長分野である電子部品業界で使用される耐火物の多くは定形耐火物です。



スピネル

セメント

マグ・カーボン

高炉・電炉

アルマグカーボン

電炉

粘土質

汎用

高アルミナ

汎用

その他

汎用

定形

不定形耐火物

粉体状や練り土状の耐火物。粉体状製品は現場で水と混ぜ合わせて流し込んだり、吹き付けたりして使用します。練り土状製品は押し付けたり、叩き込んだりして使用します。



キャストター

その他

鉄鋼・環境装置・汎用

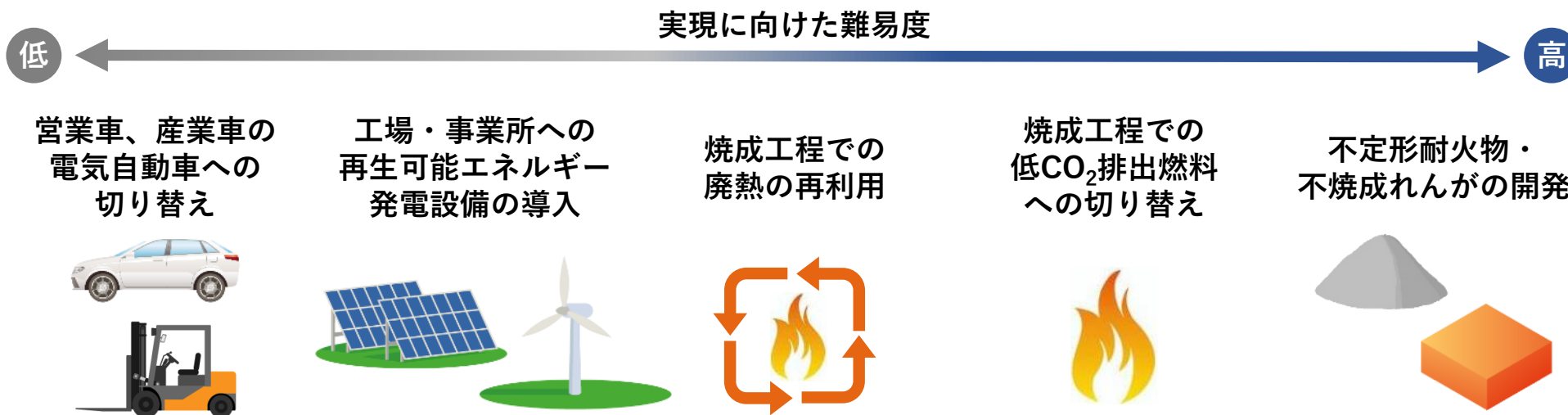
不定形

難易度が高いテーマについても実現に向けた検討を進める

定形耐火物の製造プロセス



具体的な検討テーマ



お問い合わせ先

株式会社ヨータイ 業務部

住所 〒597-0093 大阪府貝塚市二色中町8番1

TEL 072-430-2100

この資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。